

HISAKA'S DIARY

議長として出席した公務から…少しだけ紹介!



多摩市体育協会。加盟団体の会員交流会。毎年、サンリオピューロランドのレストランで開催。スペシャルゲストのキティちゃんとの撮影タイムは盛り上がりです。今年、いよいよ、ラグビーのワールドカップ、そして2020年には東京オリンピック・パラリンピック! スポーツを通じた人の輪づくりをともに広げていきたいです。

多摩市国際交流センターが創立25周年を迎えました。記念パーティ。市民のみなさんがボランティアで支えてきた活動。まさに「継続は力」!! 「多文化共生」をキーワードにした地域づくり、草の根の国際交流、ネットワークづくりにも、更なる活躍が期待されます! 「市民とともに」を掲げる多摩市の街づくりには欠かせない存在であり、活動です。

国士館大学陸上部が3年連続で箱根駅伝出場。グリーンロード永山で壮行会が開催されました。大学の方が「地域でこうした壮行会を開催してくださることに感激!」とおっしゃっていたのが印象的でしたが、私も「地域力」に感謝と感激。大学も大切な地域の一員です。

今と未来に向き合う政治をともに! HISAKA'S Style



Style 1

公平公正な姿勢!

市民全体に向けた活動を心がけ、**個人後援会はずりません。**



Style 2

政策づくりが議員の仕事!

議員としての専門性を磨き、**市民の自治力の向上をバックアップ**します。



Style 3

話し合いが大切!

意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「**第3の道**」を見つける**努力**をします。

HISAKA'S Profile

北諏訪小学校卒/桐朋女子中・高卒
中央大学法学部政治学科卒
明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了
多摩市諏訪在住 (33年)
1977年神戸市生まれ うお座 A型
2002年多摩市議会議員に初当選 (現在5期17年目)
現在は31代多摩市議会議長。子ども教育常任委員会所属



住民を「おかえり」と迎えてくれる「永どん」に気持ちほっこりする永山の夜。

市議会レポートほうれんそう

岩永ひさかへのご相談は…

ご用件と希望する連絡先を留守番電話へ! 必ず折り返します。

TEL **042-371-0763** 留守番電話専用

2019年 冬Winter 第146号

市議会レポート

岩永ひさかのほうれんそう

文章: 岩永ひさか (多摩市議会議員/所属党派: 改革みらい)
多摩市諏訪2-2 B410 プリリア多摩ニュータウン
TEL/FAX 042-371-0763

ブログ更新中!!
ご意見も随時
募集しております!

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>



■ 1年365日。大晦日を過ぎて、新しい年を迎えるとき、「リセット」ができる。毎日が続いていき、日々は重なっていくはずなのに、お正月はなぜか違っている。12月31日から1月1日へ。自然と「清々しく新しい気持ち」になれる。…人間の知恵はすごいなあ、ある意味深いとしみじみと感じた2019年の始まりでした。

■ 新年明けからも、賀詞交歓会などと議長公務が盛りだくさん。そしてまた、多摩市議会の取組みは意外と全国からも注目がなされ、なんと今年度は前年度の約2倍も視察対応を実施しているのですが、1月、2月も視察ラッシュです。何よりも健康第一、笑顔第一! つねに明るく元気良く! をモットーに、たまーに深呼吸しながら、がんばります!

■ 統一地方選挙の日程が決まりました。多摩市議会議員選挙の投票日は4月21日 日曜日です。大切な一票を活かす機会にしてほしい。「未来への責任」を一票に込めてほしい…その想いをいろいろな場面で伝えていきたいと思います。

2019年 新春吉日

岩永ひさか

まちかどのステキ

永山のデニーズ近くの遊歩道にお正月の飾付けがしてある…という噂を耳にし、元日の昼下がり、見に行きました。とてもかわいらしいお飾りに、思わず…シャッターを押してしまいました。

お飾りをここにくくりつけて下さった市民の方の粋なハカライに、「どんな思い」を込めてくださっているのかなあ…と想像しながら、その後、私は御嶽神社、貝取神社、乞田八幡神社、白山神社、そして諏訪神社に足を運び、地元の神社の年明けの空気を味わってきました。

ちいさな幸せを感じられるのがうれしい。



パルテノン多摩の大規模改修に思う…雑感。 改修工事をするということは、その後の管理運営もし続けるということ。

■まずは、共通認識をつくる必要。
「約80億円！」…巨額な大規模改修費用が示され、私たち議員も含め、市民も驚愕してから2年が経過しようとしています。改修費用については都市計画税を充当できる見込みであり、「それほど心配するものではない。」というのが、市財政当局の見解です。老朽化が進み、建物のあちこちに傷みが生じていること、そして、ホールの設備なども旧式であることを考えれば、一定の改修は必要だと思っていますが、**大規模改修をやるにしても、そのグレードをどうしていくか**について、多摩市の「身の丈」を考慮し、対応していくことが求められると考えています。

正直、文化ホールの運営などの専門家でない限り、**大規模改修費用の妥当性を見極めることはなかなか難しいのが現実**。行政も議会にも専門家がいるとは言いがたい状況の中、進められていく大規模改修に一抹の不安があるのも事実です。とは言え、これだけ

大きな税金を使い大規模改修をすると決めたからには、**市民から「改修してよかった」と評価**してもらえる取組みにしていかなばなりません。その責任の重さをヒシヒシと感じる今日この頃です。

なにしろ、「大規模改修」をするということは、その後、少なくとも30年間はパルテノン多摩を使用し続けることとも言えます。パルテノン多摩の運営費は毎年、指定管理料が約3.5億円。そして貸館収入（本来多摩市の収入になるべきもの）を合わせてほしい6億円となりますが、改修後についても、**私たち市民が毎年、施設を維持管理し、運営をしていくための一定の費用をみんなで分かち合うことにもなる**のです。（さらに30年後には建替問題があります）

私はこの事実こそ、もっと市民と共通理解し、共通認識しておくべきと考えていますが、残念ながら、今は、建物の改修費用ばかりに

目が向いてしまい、市民にとっての意義ある改修とするための施設運営問題については、先送りになっているような気がしています。**私は「改修後どうするのか？」の問題をもっと重視すべきだ**と主張してきましたが、将来を見据えた施設づくりとは、運営の在り方とともにそのために施設管理や運営費用への支出をいかに抑制できるかも重要な視点です。

■特に…博物館の機能のこと。

もともとパルテノン多摩建設当時、公園内にホールを建設することは認められていませんでした。そこで、「博物館」に併設する「ホール」という理屈をつくり建設してきたのが現在のパルテノン多摩。しかし、博物館機能を支える学芸員はたった2名しかおらず（開館当初は7名もいた）、企画展開催、調査研究成果の記録作成等にまで十分に手が回らず苦慮しています。常設展示も集客できるほどの魅力に欠けているのが事実です。そこで、例えば、今後、多摩ニュータウン研究などの拠点として活用する等、**大学や市民との連携を一層強め、場合によっては大学の研究**

室などに場の運営そのものを任せてしまう等、**従来のやり方に縛られず新しい発想を持つことも可能**ではないかと考えています。パルテノン多摩における博物館の位置づけは、将来への持続発展性を踏まえ、在り方の再考が求められている課題の一つではないでしょうか？日常業務に追われ、能力を充分発揮できていない学芸員の状況を改善したいです。

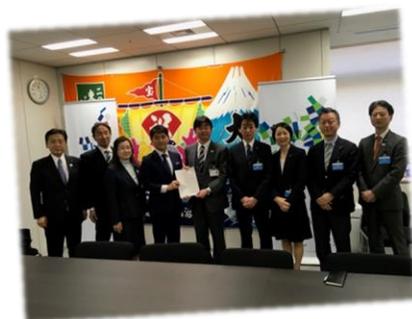
■その後、責任。

イマだけを見るのではなく、**‘その後’のことも**考えてどうすべきか？博物館機能問題については、市教育委員会の社会教育部門との連携もますます必要不可欠だと考えており、かねてから、議会でも指摘事項として挙がっていますが、なかなか全貌が見えてきません。

今回の大規模改修事業をきっかけに、**多摩市の歴史文化の保存と継承、さらに子どもたちの学習機会の提供や地域活性化のための活動拠点として、その責任を果たし役割を担える体制づくりについて、市全体で再構築すべき**と考えます。

どうぞ、ご意見をお寄せください！

TOPICS 1



東京都市議会議長会で「東京2020オリンピック・パラリンピック大会ライブサイトに関する要望書」を提出いたしました。都内23区地域だけでなく、三多摩地域でも、オリンピック・パラリンピックを盛り上げていけるようにすべきです。都内全体で8カ所設置されるライブサイトですが、三多摩地域には1カ所（都立井の頭公園のみ）しかないため増設してほしいと要請しました。



TOPICS 2



「毎日フォーラム」12月号に「議会活性化に欠かせない事務局の風土と意識改革」というタイトルで、私の意見が掲載されました。「かなり大胆で、思い切ったことを書いたね…」と言われたのですが、議長として日々感じていることを綴ってみました。

読んでみたい!とご希望の方、ご一報いただければ、コピーをお届けします。

